

巻頭言 総合サポートセンターをご存知ですか？



昭和大学横浜市北部病院
坂下 暁子 副院長

毎年4月の巻頭言は副院長が担当ですのでよろしくお願い致します、との事。4月といえば入学式、私は富士吉田の富士山を思い出しました。昭和大学は医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部（看護学科、理学療法学科、作業療法学科）を擁する医系総合大学です。山梨県富士吉田キャンパスでの初年次全寮制教育は、昭和大学の教育システムの中で最も特色があり、学生寮は医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部混合の部屋割り、1年間の寮生活においてチーム医療に欠かせない協調性や人間性を培っています。

昨年のラグビーW杯からワンチームという言葉が多用されていますが、医療の現場では多職種によるチームが必須です。当院は地域の中核病院として、かかりつけ医である地域の医師、在宅医療を担う医師、看護師、薬剤師、理学療法士、ケアマネジャーなどの多職種との連携が重要ですが、この任を担っているのが総合サポートセンターです。この名称は患者さんご家族を様々な面からサポートすることを表しており、地域連携に加え、入退院支援・総合相談など患者さんが安心して治療を受け、より快適な生活を送れるお手伝いをする役割を果たしています。スタッフは医師、看護師、ソーシャルワーカー、地域連携職員で構成されています。入院調整看護師は入院予定の患者さんに対する説明、

入院調整看護師は入院予定の患者さんに対する説明やオリエンテーションを行い、入院治療が終了した後、速やかに退院できるよう、退院を妨げる要因がないか入院前に検討し、各病棟に配置された退院支援職員に情報を伝えます。退院支援職員はこの情報をもとに、入院早期から患者さんやご家族と相談し、自宅への退院が困難な場合や、入院前の施設に退院困難な場合は、どのようにしたら良いか検討します。総合相談センターでは診療についての相談、医療費・生活費の問題、使える制度を知りたいなど様々な相談に対応しています。また当院は地域がん診療連携拠点病院であることから、がん相談支援センターも併設しています。がんの患者さんやご家族の治療に対する不安や経済的な問題、就労の問題、また緩和ケアや療養生活に関することなどの相談を他の病院で治療を受けている患者さんも含め受け付けております。

この4月に総合サポートセンターが西棟1階から中央棟1階に移動し、より皆様がご利用しやすい環境が整いました。お気軽にお声がけ下さい。



富士吉田キャンパスから見た富士山

- P1. 【巻頭言】～総合サポートセンターをご存知ですか？～
- P2. 【医学講座コーナー】 高血圧その1
- P3. 【TOPICS】 総合サポートセンター移転について
- P4. 【TOPICS】 ロビーコンサートについて / 【お知らせ】 がん相談支援センターについて
【TOPICS】 がんサロンのお知らせ
- P5. 【患者さんからのご意見・ご要望】
- P6. 【TOPICS】 令和元年度認定助産師修了証書授与式 / 【編集後記】

医学講座コーナー 高血圧その1

2020年度の『医学講座コーナー』のテーマは生活習慣病です。生活習慣病とは、食事、運動、喫煙、飲酒やストレスなどの各個人の生活習慣がその発症に深く関与している病気の総称です。昔は『成人病』と呼ばれていました。脳・心血管障害の危険因子である高血圧・糖尿病や脂質異常症が含まれています。これから1年に渡って生活習慣病の基礎について説明していきたいと思います。

まず日本（世界）で最も多い生活習慣病である高血圧から始めましょう。日本では4,300万人も存在すると推計されており、心臓病、脳卒中、認知症や腎臓病を予防する上で非常に重要な疾患です。

1. 『高血圧』とは

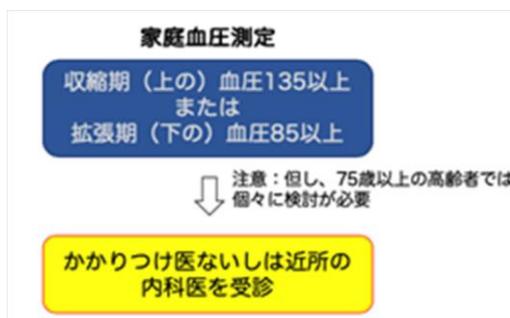
血圧とは、心臓から血液を全身に送り出す圧力です。血圧は心臓から押し出される血液量と血管の硬さ（しなやかさ）で主に決定されます。年齢とともに血管のしなやかさは失われますので、高齢になると正常でも血圧は上昇します。血圧には測定値の最高値である『収縮期（上の）血圧』と最低値である『拡張期（下の）血圧』があります。

2. 『高血圧』の診断

まずは家庭での『家庭血圧』測定が必要です。クリニックや病院で測定される『診察室血圧』より重要と言われています。

『家庭血圧』の正しい測定法は、

- ① 上腕（肘のところ）で測定
- ② 朝（起床後 1 時間以内、朝食前）と夕（可能なら就寝前）
- ③ トイレを済ませ、1～2分座って安静
- ④ 2回測定し、その平均値を記録、週5日以上の記録があると良い



3. 『高血圧』の問題点

高血圧を放置すると、動脈硬化が進行し、血圧が更に上昇するという悪循環が生じます。高度に動脈硬化が進行すると十分な血液が重要な臓器に運ばれなくなり、脳卒中、認知症、心臓病や腎臓病などの重大な病気のリスクが増大します。糖尿病やコレステロールが高い方では危険性は更に高くなります。

現在、国内の高血圧の患者さんは約4,300万人と推計されており、十分な治療が実施されている患者さんはその1/4から1/3程度と考えられています。高血圧治療は元気で長生きするために、血圧の管理は極めて重要です。



高血圧と診断されても緊急性がある症例以外は、生活習慣の改善が薬物治療より優先されます。次回は、『高血圧の予防・治療』に有効な生活習慣の改善について、栄養士の方を交えて解説したいと思います。

（内科 緒方浩顕）



内科
緒方 浩顕 教授



TOPICS 総合サポートセンター移転について

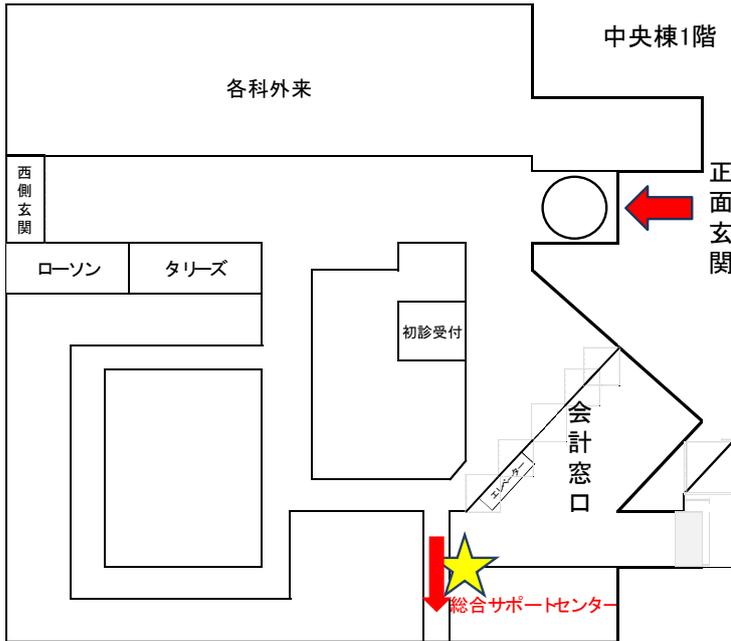
総合サポートセンターが移転しました。

総合サポートセンター長の西川です。これまで、患者さんや医療機関の皆様へさまざまな支援をさせていただいていた総合サポートセンターが、西棟から中央棟 1 階に移転し、3月30日（月）から運用を開始いたしました。

移転後のセンターは、場所も正面玄関に近くなり、ご相談・ご説明の機能を集中させるなど、とても利用しやすくなっています。どうぞよろしくお願い致します。



西川 徹
総合サポートセンター長



移転先は、中央棟 1 階にある会計機、3連エレベーターを過ぎた左手にございます。

総合サポートセンターの主な仕事

医療福祉相談、退院調整、病床管理、地域医療連携といった業務を、医師、看護師、ソーシャルワーカー、事務員が協力して運用しています。

<p>① 総合相談業務（患者相談窓口） 専門の担当者が、患者さん・ご家族が安心して療養生活を送れるよう一緒に問題を考えていきます。</p>	<p>② がん相談支援業務 がんに関する治療や療養生活全般、地域の医療機関などについて相談をお受けし、情報提供や問題の解決に向けて、一緒に考えていきます。</p>
<p>③入院前相談業務 入院前から患者さんが安心して医療が受けられるように面談を通じて、入院や手術の案内、入院に必要な物品の説明、服薬状況やアレルギー歴等の情報収集、患者さんが抱える疑問・不安への対応、退院調整との連携などを行います。</p>	<p>④退院・転院支援、調整業務 病棟の各フロアに専任の看護師またはソーシャルワーカーを配置して、病棟看護師や他職種と連携し、入院中の患者さんやご家族に対して、退院に向けた医療機関との調整や、地域のケアマネージャー、訪問看護師などとも連携して、患者さんへの医療、介護が提供できるように支援します。</p>
<p>⑤地域医療連携業務 地域の診療所や一般病院との連携を深め、紹介・逆紹介を進めるうちに、広報活動、各種イベント、医療機関訪問等を行っていきます。</p>	

TOPICS ロビーコンサートについて



毎月開催しておりますロビーコンサートですが、新型コロナウイルスの影響で、3月の開催は中止となりました。4月の開催は未定ですが、開催および演奏者が決定次第、院内のポスター及び当院ホームページの「最新情報」欄にてお知らせいたしますのでご確認ください。



がん患者サロンのお知らせ・がん相談支援センターについて

○がん患者サロン『きぼう』のお知らせ

日時：2020年4月16日（木）14:00～16:00

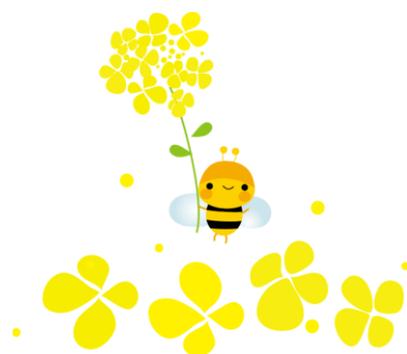
場所：当院 中央棟9階 大会議室

テーマ：人生会議とは

担当者：がん相談支援センター看護師

皆さまのご参加をお待ちしております。

※新型コロナウイルスの影響で、急遽中止となる場合も
ございます。ご了承下さい。



○がん相談支援センターについて

がん専門相談員（看護師等）が、患者さんやご家族からのがんに関連した質問や相談をお受けし、情報提供や問題の解決に向けて、一緒に考えていきます。

※個人の秘密は守り、相談されたことにより不利益が生じないように配慮します。

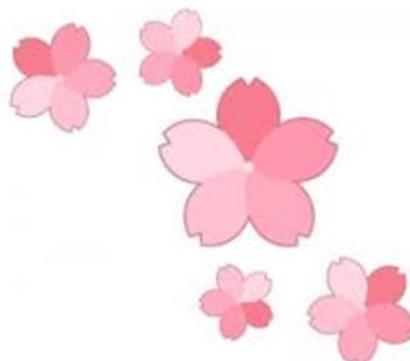
※相談は無料です。

※当院を受診されていない方の相談もお受けしています。

受付時間：月～金曜日（祝日除く）
8:30～17:00

対応時間：月～金曜日（祝日除く）
8:30～17:00

場所：中央棟1階 総合相談センター



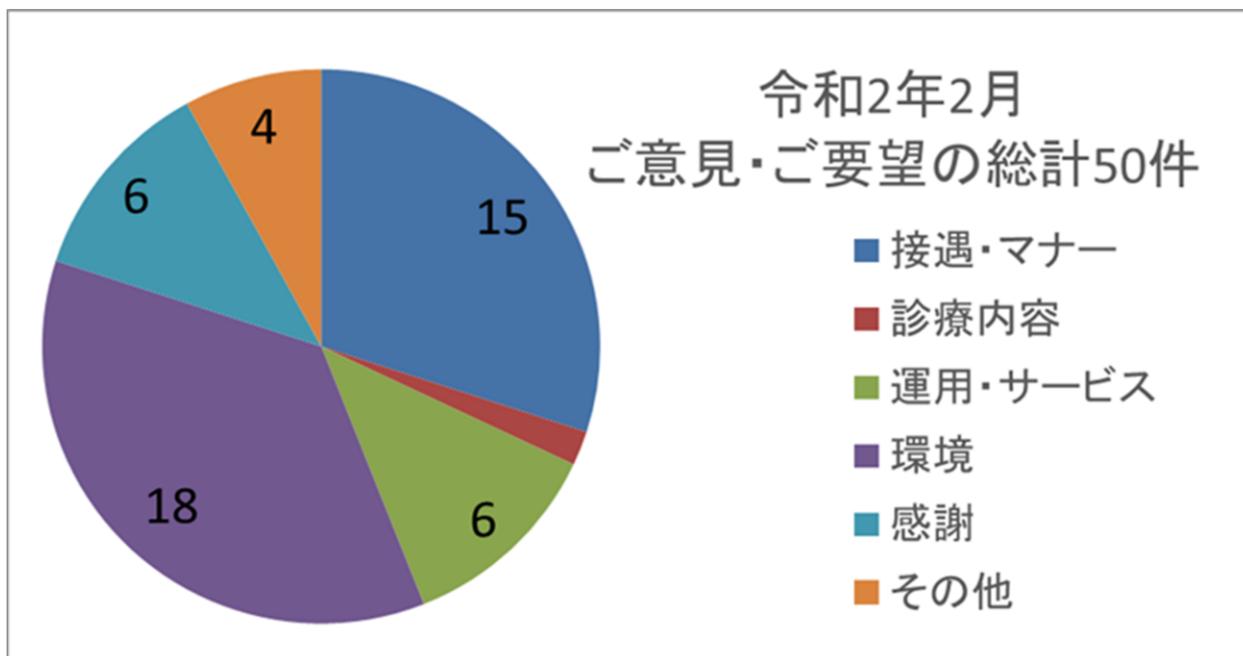
患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんよりいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
<p>処方せんに身長・体重を載せてほしくありません。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>処方せんに身長・体重を載せている理由は、お薬によっては患者さんの身長・体重を元にお薬の用量（投与量）を決定しているものがあり、調剤薬局に情報提供が必要となるためです。</p> <p>医師もお薬を処方する際、用量を確認のうえ、入力しておりますが、調剤薬局においても再度患者さんの情報を元に用量を確認のうえ、お薬を調剤しております。</p> <p>ご要望に添えず誠に申し訳ございませんが、患者さんの医療安全のためにも、ご理解くださいますようお願い致します。</p>
<p>家族との連絡手段として携帯は欠かせません。充電をさせていただくよう、お願いします。テレビ同様、有料でも可です。</p> <p>（※他にも同様のご意見が寄せられています。）</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>当院では、入院中の患者様については、指定の場所にはなりますが、コンセントの使用を認めております。</p> <p>また面会の方につきましては、お手数をおかけいたしますが、当院の売店で充電器の販売、レンタルをしておりますので、そちらをご利用いただくか、事前にモバイルバッテリー等をご持参いただいた上で、ご来院いただきたく存じます。</p> <p>ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。</p>



令和元年度 認定助産師修了証書授与式

令和2年2月13日(木)に、認定助産師修了証書授与式を行いました。

昭和大学では、医師と助産師が協調し、安全で且つ妊産婦の満足が得られるような分娩を提供することが重要と考えています。認定にあたっては、各種指定の講習会の受講や症例レポート数、分娩介助件数等の課程を修了した助産師が「認定助産師」として認定されます。

今年度は、当院の助産師2名が認定課程を修了されました。今後はマタニティハウスで行われる助産師主体の分娩に積極的に参画し、助産ケアのみならず、母児の健康ケアに貢献します。



石川助産師(左)・川原井助産師(右)

おめでとう!



編集後記

新年度が始まり、患者の皆様にも一緒に育てて頂きたい新人達が院内を行き交う時節の到来です。2020年の始まりは暖冬で穏やかと思われましたが、新型コロナウイルスの登場で重苦しい早春となってしまいました。この感染症が早々に収束し、陽光の下、スポーツや音楽などを楽しむことが出来る日を待ち望んでいます。この年末には、“色々あったけど結構良い1年であった”と追想できると良いですね。感染症は至るところにあります。手洗い、咳エチケット、予防接種などを抜かりなく。最後に、今年度も『北部病院だより』を宜しく申し上げます。

〈昭和大学横浜市北部病院 広報委員長 緒方 浩顕〉

北部病院だより 第142号
2020年4月1日発行

発行責任者 門倉 光隆 (昭和大学横浜市北部病院長)
編集責任者 緒方 浩顕 (広報委員会 委員長)
発行 地域中核病院 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1
電話 045-949-7000(代表)

URL : <http://www.showau.ac.jp/SUHY/index.html>
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。

